

## BSCフォローアップシート（年度末評価用）

病院（所属）名：小児保健医療センター

区分	戦略的目標	BSCの当初目標設定内容			年度末 進捗状況				評価・今後の対応	
		業績評価指標	数値目標	主なアクションプラン	アクションプラン 取組の有無	アクションプラン実績	数値目標 実績	4段階評価		
患者の 視点	患者満足度の向上	今後も当院に通いたい人の割合	外来85% 入院85%	患者アンケート調査	○	昨年度の調査結果を踏まえ質問項目等を検討し11月にアンケート調査を実施した。	外来91% 入院94%	A+	1. 全体としては概ね満足度は高いものの、外来では待ち時間の気遣い、交通・駐車場、診察待ち時間の負担の3項目、入院では病室清潔の項目については比較的低い評価となっている。 2. 病室清潔の項目については清掃業者との契約内容を見直し徹底した業務管理を行う。	
	発達障害 支援強化	閉鎖病棟開設調査研究着手	先進地視察	閉鎖病棟の情報収集 年間予想患者数調査	○	院内ワーキンググループ(WG)により閉鎖病棟の必要性を検討し先進地視察を行った。	情報収集 (先進地調査)	A	1. 閉鎖病棟の必要性は高く一定の需要も想定される。 2. 今後、より詳細な検討を行う。	
		感覚統合療法(SI) 年間延べ患者数	800人	発達障害患者への感覚統合療法を推進するため、作業療法士の資格取得を推進する	○	作業療法士1名が発達支援関係研修に参加した。	948人	A	1. 発達障害関係研修への参加を支援できた。 2. 今後は、資格取得できるよう業務と調整を図りながら講習会を受講できるよう支援していく。	
	リハビリ の充実	リハビリ入院患者数	30人	入院リハビリの体制を強化するため、作業療法士の増員を図る。	◎	リハビリ科部長退職によりリハビリ入院の受入体制の見直しを行った。	15人	C	1. リハビリ入院:担当部長退職により中断。外来:スタッフ復帰により体制充実。 2. 医師、リハ科スタッフが一体となり、リハビリ入院の推進に取り組む。	
		外来リハビリ患者数	20,000人		○		14,970人	B		
	診療科 の充実	眼科レジデント1名獲得	1名確保	眼科医師との情報交換。行程の具体化。	○	医科大学に常勤医の派遣を要請していたところ、平成26年6月以降1名派遣されることとなった。	1人	A	1. これまでの地道な要請活動が実を結んだ。 2. 今後、視能訓練士や外来看護師などのスタッフの充実を図る。	
新たな医療サービス		1件	アンケート調査による患者ニーズの分析	○	院内ワーキンググループによる検討で、新しい診療科や専門センターなどが提案された。	情報収集 (先進地調査)	A	1. 当初の予定どおりワーキンググループによる内部検討や先進地視察を実施できた。 2. 今後、基本構想を検討する中で診療科のあり方を検討する。		
慢性疾患 患者の救急 体制強化	救急受け入れ患者数(外来・入院)	外:350人 入:180人	救急依頼から診療までの業務改善	○	当直医師1名により、時間外における患者(初診を除く)の受入を行っている。必要時には、オンコールによるサポート体制を敷いている。	外:333人 入:169人	B	1. 現在のところ特に問題なく業務が行われている。 2. 今後、改善点があればその都度対応していく。		
	病床利用率の向上	病床利用率	75.0%	病床利用率のモニタリング	◎	定例会議で各病棟別、各科別の利用状況がわかる資料を配付し分析を行っている。また、随時最新の病床利用率を職員に情報提供している。	71.8%	B+	1. 昨年の実績を上回り、70%を超えることができた。 2. 今後とも利用状況の把握に努め目標の達成を目指す。	
財務の 視点	財務の安定	レセプト返戻数(率)	380件	診療報酬請求説明会の定期開催	◎	定期的な会議において、診療報酬を減点された内容、理由等がわかる資料を配付し、復点対策や、今後の減点防止に取り組んでいる。あわせてソフトウェアによるチェックを行っている。	200件	A+	1. チェック体制強化により返戻件数は減少した。 2. 今後は、減点数の減少に向け、院内への啓発を強化していく。	
		レセプト減点数(率)	360件		◎		789件	C		
内部 プロセス の視点	病棟機能 の充実	術後回復室の試行	計画策定	現状調査および分析、対応検討	○	院内ワーキンググループ(WG)による検討で、術後回復室やNPPVセンターなどが提案された。	WGによる 検討	A	1. 当初の予定どおりワーキンググループによる検討を実施できた。 2. 今後、基本構想を検討する中で病棟機能の充実について具体的な検討を進めていく。	
		小児NPPVセンターの開設	計画策定							
		療養環境整備策実施数	5件	療養環境改善案の定期募集	○	職員からの改善提案および患者からの要望を精査し対応した。	5件	A	1. 老朽化した施設の修繕に関する要望が多かった。 2. 予算の範囲内において提案や要望に積極的に対応する。	
	在宅医療・ ケア支援の 充実	年間受入数	1,500人	レスパイト受付窓口の設置	○	患者家族からの要請に対して積極的に対応した。	2,574人	A	1. 要望が多いときには病棟を超えて調整するなど予定枠以上に対応した。 2. 今後ともできるかぎり利用者の要望に対応していく。	
		訪問看護ステーションとの連携ケース数	30件	小児看護の技術指導	◎	今年度より在宅療養支援担当看護師を保健指導部に配置。地域での訪問看護師も参加するケース会議や自立支援協議会等の会議に参加することで、訪問看護ステーションに対してアピールでき、小児の在宅患者を支援する関係づくりの強化を図った。	51件	A+	1. 引き続き個別の在宅療養支援を通じ地域と連携し、地域の実情にあわせ小児に対する訪問看護を提供していただける訪問看護ステーションを増やす。 2. 小児の在宅療養支援は、全体的な課題であり、県としてとり組まれるよう今後も関係各課に働きかける。	
	小児から 成人へのシ ームレスな 医療サービス 提供支援	成人対象医療機関への紹介成功患者数	10人	県立リハセンターとの連携システム構築	○	湖南圏域重度障害児者医療ネットワークを圏域に拡大すべく、湖北医師会と協同で説明・研修会を開催したほか、湖南、湖東、湖北の重症者支援検討団体の活動支援を行った。	9人	B	1. 湖南圏域ネットワークは順調に活動を始めている。 2. 今後、湖南以外の圏域ネットワークへの関与を進める。	
				成人化した患者の紹介窓口の設置						○
	地域連携 の強化	紹介患者数・率	2,600人	開放病床設置研究開始	○	院内ワーキンググループによる検討会で、将来構想の検討項目として開放病床があげられた。	1,881人	B	1. 院内ワーキンググループでの検討では開放病床の設置提案があった。 2. 今後、障害児の在宅療養推進において地域の診療所への支援方法を検討する。	
		逆紹介患者数	1,500人	広報誌への連携病院紹介記事掲載			1,372人			
	医療安全 の徹底	レベル3b以上の事故数	0件	同一インシデントの発生削減強化	○	毎月、医療安全管理委員会を開催し、医療事故の分析を実施している。ワーキンググループによる現地確認を行い、事故原因の解明と発生予防に努めた。	1件	B	1. 医療安全管理委員会やワーキンググループによる調査は予定どおり実施できている。 2. 今後とも、事故原因の解明と医療事故の発生防止に努める。	
職員満足 度の向上	今後も当院で働きたいと答える職員の率	83%	職員アンケート調査結果の反映	○	7月に病院事業庁による職員アンケート調査の実施に協力するとともに、調査結果を院内の運営会議で報告した。	61%	B	1. 評価点自体は、3病院中で真ん中だったが、前回より10%率が低下した。 2. 毎回、古い施設の更新や職員の増員に対する要望が多いが、対応は困難な状況にある。		
活発な 広報活動	HPの情報更新頻度	1か月に 2回	HPのリニューアルを促す部門の設定	○	広報委員会においてホームページのセキュリティー対策を議論し、県庁サーバーへの移管およびCMSIによる管理に変更した。	1か月に2回	B	1. 概ね計画どおり情報誌が発行することができた。 2. 今後とも目標回数を目指し発行を継続する。		
	年間発行数	年4回	広報発行回数と時期の遵守	◎	広報誌「チャム&リリ」第14号(7月)、15号(10月)および16号(2月)を発行した。	3回	B+			
学習と 成長の 視点	教育の 充実	レジデント数	9人	新たなカリキュラム策定	○	短期受入プログラム等多様なカリキュラムの導入により研修医の確保に取り組んだ。	5人	C	1. 今年度は京都大学からの受け入れが中止となり予定を下回ることとなった。 2. 今後も多様な研修カリキュラム等により新規レジデントの獲得に取り組む。	
		資格取得者数(看護師)	4人	資格取得費用援助	○	医師、看護師、メディカル等が専門資格を取得する際の経費を病院が負担することにより、各種資格取得を支援している。現在、専門医、認定看護師等の資格取得に取り組んでいる。	8人	A		
		資格保持者数(医師)	32人	資格取得職員の有効配置	○		19人	B		
		専門資格取得数(コメディカル)	9人	資格取得へのモチベーション作り	◎		10人	A+		
		専門研修派遣者数	120人	適切な研修の選定	◎	各部署へ関係機関が実施する院外研修を周知し、職員が積極的に参加するよう努めた。	140人	A+		
	研究活動 の 活性	年間学会発表数	70回	発表費用援助	◎	学会発表数 診療局75回、看護部17回	92回	A+	1. 当初の予定を上回ることができた。 2. 今後とも研究活動を支援する	
論文発表数		20本		◎	論文発表数 診療局22本	22本	A+			

(注) 事故件数はレベル3b(濃厚な処置や治療を要した場合)以上のものとする。事故とは、過誤・過失の有無にかかわらず医療の全過程で発生する全ての人身事故をいい、これには患者自身の不注意による転倒等も含まれる。